

ササユリ保護の研修会開催

～保護回復事業策定を受けて～

一月二十七日、飯田合同庁舎で「ササユリ保護回復事業計画に関する研修会」が開催され、県内各地から自然保護活動を行う

団体の会員ら六十名ほどが参加しました。

研修会では、大町市立山岳博物館の千葉悟志学芸員、伊那谷自然友の会の小林正明会長が講演し、その後、県自然保護課からササユリ保護回復事業計画についての説明があり、参加者間での意見交換が行われました。

講演では、千葉学芸員から「知っておこう ササユリの生活と生育環境」という演題で、ササユリが開花までに五年から八

年かかることなど、ササユリの生活史や管理方法などの話がされました。また、小林会長から「伊那谷でのササユリ保護活動について」という演題で、伊那谷における保護活動の状況の紹介がされました。

中央新幹線 環境影響評価法に基づ く知事意見提出

二月二十四日に、中央新幹線環境影響評価方法書に対する知事意見をJR東海に提出しました。

十八項目の調査項目への追加、できる限り環境への負荷を回避・低減することなどを求めました。今後、環境影響評価法の手続きとしては、知事意見を受けて、JR東海が調査方法を決定し、調査、予測、評価を行っていくこととなります。

資源の枯渇抑制と地球温暖化防止を考える 地球温暖化防止活動推進員 小池 晴人(飯田市)

本年度から推進員の仲間に加えさせていただきました。

昨年開設されました南信州広域連合の、桐林リサイクルセンターにて、リ、ユース品の取り扱いと環境講座などの企画、実施を担当させていただいております。

又、施設見学の案内のお手伝いをさせて頂く中で、飯田市のペットボトルリサイクル工場で1日に二十七(八十万本)以上あることに驚くとともに、原料である化石燃料の枯渇抑制も含めて、リターナブルの推進を強く感じています。

又、着なくなった衣料や不要になった家具なども、今までは焼却処分していた物をリ、ユースして、もう一度必要な方に使っていただく取り組みも、まだ十分とは言えない状態です。物を大切に運動、燃やせば地球温暖化を進める二

酸化炭素の製造工場となる事の重要性を理解していただけるよう頑張っています。

リサイクルするにもまた、エネルギーを必要とします。

3R運動の中でも、リ、デュース(抑制)を柱として、ごみを作らない運動を意欲的に取り組みたいと思います。

電力エネルギーの問題で、福島原発の事故から原発廃止の運動が活発になつてきました。

ただ安易に廃止といっても、原発一基を停止するには、昨年川路に建設されたメガソーラー規模で1000ヶ所設置しなければなりません。

現在定期点検のために五十四基のすべてが四月には停止します。

再稼働するにはストレス検査をし



た上で、承認を得ないと運転出来ない決まりになっているため、事実上原発は全面停止となります。原発代替策として、休止中の火力発電所がフル稼働の状態になっているため、二酸化炭素の排出量は削減どころか増加の一途をたどっている現状です。

電力会社の設備設計はピーク電力で決定されると聞いています。一軒毎待機電力削減なで対応することも大切ですが、まずピーク電力を減らして、原発や火力発電所を一基ずつ止めて行くのが先決問題であると考えます。

過去を振り返って

不法投棄監視連絡員

村沢 英孝(飯田市)

私の監視区域は、国道418号、153号を經由して右に左に市道があります。

中には行き止まりの区域、又通り抜けられる道路と、多種多様な区域で活動しています。

釣りのシーズン、5月の大型連休、秋の紅葉シーズンとなると車の往来が激しくなります。なか



最近の皆様も多少のモラルがあるようになってきたのでしょうか。大きな不法投棄は見当たらなくなりました。たまにペットボトル、空き缶、煙草の空箱等ありますが、これも丹念に見つけることにしています。

いつの日か、不法投棄が無くなる日が来ることを願いながら、これからもパトロールに精進したいと考えています。

不法投棄に関心を!

不法投棄監視連絡員

木下 耕貴(喬木村)

不法投棄監視

連絡員手帳が六冊になりました。早いもので六年になるんですね。私の担当監視地域は、喬木村、豊丘村の二村にまたがります。両村とも奥の深い村で、山間地域も数多くあ

ります。

仕事の関係上村内を毎日の様に車を走らせています。パトロール実施予定日でもないのになぜか習慣でしょうか、ゴミと思われる物が目に付いて仕方ありません。

今日は、道路下には、この河川には、又この山林には「ゴミがなければいいのに」と願いながら



不法投棄が減らないのが現実です。今後は明るい村づくり、美しい村づくり、そして美しい環境づくりを目指して、多くの人に不法投棄に関心を持って頂き、不法投棄監視連絡員などいろいろな社会が来ることを節に願っています。

南信州環境ネット

編集委員会

からのお願い

南信州環境ネットも創刊から五年近くが経ちました。創刊当時から、温暖化防止活動推進員、自然保護レンジャー、不法投棄監視連絡員、希少野生動物植物保護監視員の方に企画編集委員をお願いしてきましたが、推進員等の更新時期を機会に、やめられる方も出てきており、企画編集委員も数が少なくなってきました。

そこで、新たに企画編集委員をお願いしたいと考えています。地方事務所環境課の方からお願ひすることがあるかもしれませんが、その際は、よろしくお願ひします。

編集後記

平成二十三年度、最後の発行となりました。今年度は四回発行予定のところ、三回のみとなりました。申し訳ありませんでした。

今後はこのようなことがないよう、努力いたしますが、環境ネットは皆様方の投稿によって成り立っています。各推進員等の活動状況、この地域の状況や課題等を共有していくことを目的としておりますので、日頃の活動や、感じること等、どんなことでも結構です。是非、積極的な投稿をお願ひいたします。また、次号からは編集担当が変わりますので、ご協力のほどをよろしくお願ひします。